

13 三遠南信地域住民セッション 要旨

San-En-Nanshin Summit 2017 in Minamishinsyu

■開会挨拶

関 京子代表世話人

おはようございます。朝早く遠くから御苦労さまでございます。本日は好天気にも恵まれて本当に良かったです。



今年も良い成果が得られるように皆さんの御協力をお願いいたします。

昨年のサミットの折、静岡県立大学の須田先生からこの三遠南信には素晴らしい民俗芸能があり、国で保護する必要もあるくらいだとお聞きして私たちも胸を張っております。

そこで、大切なお祭りの伝承について後継者や経済的な問題として大きく取り上げられていますが、食文化については全然取り上げられていませんでしたので、お祭りと同時に伝承していくべきではないのかと私たち南信州交流の輪では祭りと食文化を融合したイベントを実施して4年目になります。

新野の祭り街道のネーミングを使わせていただき、新野の雪まつりの御膳やお弁当は「はつはる」として、坂部の冬祭りは「神楽舞」としてお上がりいただきました。

本日はお昼に雪祭りの「はつはる」弁当を作りましたのでお上がりになってください。各地のお祭りとお食文化も同時に伝承されるようになれば良いと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。



■第1部 協議会事業中間報告

矢澤律子世話人

1. 世話人会の開催

※三遠南信地域住民
団体連携事業事業
費補助金（世話人
会開催事業）



- (1)実施日／2016年4月27日（東栄町）、6月2日、7月12日、9月28日、11月15日、3月にも実施予定
- (2)場 所／阿南町役場新野出張所（阿南町新野 1495-1）
- (3)内 容／サミット住民セッションの企画、連携事業の企画、進捗状況の把握、今後の展開策の検討

2. 活動のマッチングの場づくり

- (1)三遠南信地域の住民団体による連携活動を通じた協働を進め、地域資源の活用や継承、再発見するための研修事業

①実施日・場所

2016年6月25日（土）
新城市四谷地区千枚田
2016年9月3日（土）
阿南町和合地区

- ##### ②内 容／会員の活動地域を相互に訪問し、交流団体の活動拠点において地域資源を活用した活動に参加し、活動内容と活用方法を学ぶ。

- (2)特産品のブランドづくり現地見学ツアー
※三遠南信地域住民団体連携事業事業費補助金

- ##### ①実施日・場所／2016年10月7日（金） 阿智村南信州機能性食品工場あちの里

②内 容／三遠南信の特産品の生産地に
公募した地域住民とともに出かけ、生
産者からの話を聞き、地域の魅力の広
報に努める住民啓発イベント

3. 連携プロジェクト推進に向けた取組

(1) 街道を通じた地域資源連携プロジェクト

内 容／伝統芸能などの祭りをコンセプ
トに、高速道路や国道、県道などの街道
をつなげて道の駅を拠点としたネットワ
ーク化など。本年度は、浜松河川国道事
務所から「平成 28 年度 三遠南信地域祭
り街道資料作成業務」を受託した。調査
対象範囲は遠州地域から新城市・東栄
町・豊根村へと拡大した。主な事業内容
は、道の駅を活用した祭り街道の広報資
料（マップ等）の作成である。

※詳細は、第 2 部で NPO 法人地域づくり
サポートネットから説明する。

(2) アート街道プロジェクト

①実施日・場所／

2016 年 7 月 8 日（金）

とよはし穂の国芸術劇場 PLAT

2016 年 8 月 12 日（金）

豊橋市民文化会館

②内 容／三遠南信地域の文化情報発信
の一環として「志多ら」公演の開催協
力と公演会場での三遠南信地域の PR
活動

4. 会員相互の交流会

三遠南信住民ネットワーク協議会総
会や三遠南信サミット住民セッションな
どを通じて、会員相互の情報交流の場を
設けた。また、住民団体の事業に対して
協議会が積極的に協力団体等となり、事
業の PR や参加の呼びかけを行うために、
公式ウェブサイト上で随時情報発信した

(URL:<http://sen-jna.jimdo.com/>)

5. 三遠南信サミット 2017in 南信州住民セ ッションの企画準備、開催およびサミッ トの分科会に住民団体として協力

(1)実施日・場所／2017 年 2 月 15 日（水）
飯田文化会館およびシルクホテル

(2)内 容／

第 1 部 事業中間報告

第 2 部 全体討議

第 3 部 祭り街道弁当の昼食会

6. 三遠南信住民ネットワーク協議会の財源 確保

(1)SENA 補助金事業に申請し、活動費の助
成を受けて事業を実施した。

(2)国土交通省の委託事業を受託した。

■第 2 部 全体討議

進行 福沢千恵子世話人

これから発言される 8 人の方の発言内容
は、本日午後の三遠南信サミットの分科会
でもしっかりと伝えていただきたいと思います
ので、特に伝えていただきたいことが
あれば発言を聞いたうえで補足してくださ
い。

1. 分科会での発言内容報告

「道」分科会

座光寺地域自治会相談役 湯澤英範

座光寺を取り巻く
交通インフラは、画
期的な整備がされま
す。2027 年開業の
「リニア中央新幹線
の駅」が、歩いて 15



分以内の所に設置されます。さらに、リニ
ア開業に向け、「三遠南信自動車道」の建設
が着々と進められています。また、中央自

動車道の座光寺パーキングとリニア駅を結ぶアクセス道路が新設されると共に、国道153号が4車線に拡幅され、利便性が飛躍的に向上し、まさに、三遠南信の交通の要衝に大変革します。

「座光寺の宝物」とは、古墳時代から近世までの各年代の貴重な「歴史資産」と「豊かな自然景観」があります。

「恒川官衙遺跡」につきましては、平成26年3月に国の史跡指定された奈良・平安時代の郡役所の跡で、東山道を使つての東西文化の結節点として、重要な役割を果たしたと言われてしています。出土する「硯」の多さから、事務量の多さが推定されており、また、地方ではほとんど出ていない日本最古の貨幣「富本銭」などが出土しており、「都」との深いつながりがあったとされる貴重な遺跡です。

「高岡第1号古墳」につきましては、平成28年10月に国の史跡指定を受け、当地域最大の「前方後円墳」で、6世紀前半に築造されたものと推定されています。

麻績学校校舎一帯は、4施設がまとまっており、それぞれ個々に魅力を秘めているうえに、一帯の佇まいは日本の原風景を彷彿させる癒しの場でもあります。

そこで、これらの宝物を活かして「2000年浪漫の郷づくり」と称して取り組んでいる活動の様子を紹介します。

まず活動は、「座光寺地域自治会」傘下の「2000年浪漫の郷委員会」が主体となり運営されており、地域の歴史資産などを活かして、地域外から訪れる人々が回遊し、安らぎや癒しを求める場として、地域の魅力を発信していこうと、地域づくりを進めています。

現在、飯田市では「恒川官衙遺跡」の保存活用の基本計画を策定中で、その中で史跡公園やガイド施設の整備のあり方を検討しています。そこで、地域としてどの

ような整備を求めていくかを議論し、住民意見をまとめているところです。

この恒川官衙遺跡は、「2000年浪漫の郷構想」の中核施設となるだけに、住民の思いを強く行政に働きかけていきたいと思っています。具体的な取組はボランティア活動として、遊歩道の建設、花木の植栽、ゴミ拾い、草取りなどのほか、史跡広場取得に向けた寄付金活動、学習会も行っております。今後は浪漫の郷の回遊ルートや街並みの在り方の検討、さらにはイベントや学習会の開催、案内ボランティアの養成など多岐にわたるほか、これらの活動を推進するためにNPO法人化の検討もしています。

今後目指すものとしては、この構想を着実に実現するためには住民自身が地域の宝を十分認識し、行政と連携して学習活動などを行い、地域に根ざした地域全体での取り組みを心がけて参りたいと思っています。

その上で、2000年浪漫の郷の魅力を南信州地域と連携してインターネットなどを駆使して国の内外に情報発信し交流人口の増大を目指して地域の魅力アップにつなげていき、それがやがて「住んでみたい地域」にもつながるものと確信しています。

NPO 法人浜名湖クラブ理事 小林 昇

静岡県西部の遠州地域にはマリン産業界における世界一の湖、浜名湖があります。概略を申し上げます。

浜名湖には世界企業であるホンダ、スズキ、ヤマハ等が約半世紀にわたり開発基地を設け、浜名湖で開発されたマリン機器の世界の市場占拠率は約65%前後を占めております。また、世界的な水上の乗物として150か国で活用されている水上オートバイの誕生地でもあります。



浜名湖クラブでは、浜名湖ロマンという説明をしております。地図を左に90度傾けますと人の顔が浮かんできます。浜名湖が目、渥美半島が鼻、三河湾が口になります。三遠南信地域はその中心になります。三遠南信地域の周囲に黄色い枠がありますが、これがいわゆる日本で言われているパワースポットです。その中心が浜名湖であり、三遠南信なのです。浜名湖は目にあたりますから先をよく見るができるということでホンダ、スズキ、ヤマハ、トヨタもそうですし、中世は秀吉や家康も浜名湖から育っているわけです。下伊那はちょうどこの顔の耳にあたる場所です。日本でも有数の果実のなる場所です。口のところは日本でも有数の調味料の産地であったり、場所によって産地が決まるというそういう話を浜名湖ロマンではやっております。

現在、浜名湖の南側には、JRの駅が3駅（鷺津、新居町、弁天島）あります。北側には天竜浜名湖鉄道が通り、湖面に隣接した駅は約10駅あります。そして東名高速道路や国道1号が通っております。

この浜名湖の湖岸において、陸上と水上とを結びつける交通ネットワークはほとんど存在せず、観光や産業に生かしていないのが現状であります。水上交通を活用した駅と道路とのネットワーク作りが必要であり、湖岸の整備や定期船の発着はもとより、特に不定期船として水上タクシーの運用が極めて重要と考えられます。こうした交通ネットワークを作りたいと考えます。

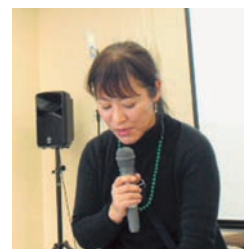
もう一つ水辺というと天竜川があります。天竜川は信州と太平洋側の都市を最短で結ぶ“水上の道”であり、科学技術が向上した現在、交通の観点から再度見直す地域と考えます。例えば、海外では浅い渓流域でも多数の人を運べるジェットボートも稼働しており、空飛ぶゴムボートもあります。水面の水だけでなく上部の空間領域を利用

した交通を考えることも大切です。また、ダム区間には“川の駅”を造り、その間をバス運行で繋げ、観光と産業の道として、“水上の道”の活用を今後考えていきたいと思っております。

「技」分科会

サンガラトナ 大島たまよ

伝統文化と手仕事の技というところから、これから取り組む再生可能なエネルギーや、伝統と未来の融合とか経済と環境



の融合などを、持続可能な社会の構築をキーワードに語ってみたいと思っております。

浜名湖ロマンの語る顔というのをはじめて見させていただいたのですが、「天狗」だと思えました。天狗は三遠南信地域には馴染みの深い存在でして、私は民俗学で山姥とか天狗などの異形な物語を扱っています。その中でも天狗の果たす役割はこの地域に大事なものです。これをキーワードにして技を語っていけたら、これも宝のなかに入るのではないかと考えています。

また、私は葛布を製作しており、18年目になります。葛布は遠州地域で伝統的な工芸品ですが、その存在も今は風前の灯となっています。また葛布の関係から、南信地域で製作されていた藤布にたどり着きました。今は藤布も学んでいます。このような地域の宝としての伝統文化を繋ぐ活動と、これに並行して再生可能な事業もこれから立ち上げていく予定です。天竜区の茶畑の再生をめざしておりますが、ただ農業を継げばよいというわけでは無く、次の世代に向けてどういう形で農業を作っていくかよいか課題であると考えます。今度始めるのは茶畑のソーラーシェアリングという事業ですが、これは茶畑の上にソーラーパ

ネルを設置し売電をしてお金を得るだけではなく、パネルの支柱が抹茶にする茶葉を作る碾茶の幕を張る支柱にもなり、農家の作業を軽減すると同時に茶葉の生育を助けます。現在は茶葉を抹茶として売するために生産するというを考えています。抹茶は世界的に需要が高まっています。国内販売だけではなく、海外に目を向ける必要があります。海外からの需要はというと、日本茶はヨーロッパ基準に照らし合わせると農薬の基準が合わないそうです。そこをクリアするために無農薬栽培の抹茶の生産を心がけています。ソーラーシェアリングする茶畑のある地域の活性化にも取り組んでおり、地域の人の理解を得るとともにその地域住民とともに発展していこうという活動に取り組んでいます。

奥三河自然と歴史にふれあう会

加藤博俊

産業振興についてということで観光産業に関する設楽町の事例を報告したいと思います。



私は 25 年ほど前から設楽町で観光ボランティアガイドをしております。設楽町は愛知県の北東部にあります。面積は大きいですが、人口は約 5000 人であり、過疎少子化が進み限界集落も増えています。設楽町はほとんど山の中に小さな集落があり、山からは豊川の源流があります。豊川の 1 滴は設楽町から流れています。自然は豊かだが人は非常に少ないという町です。わずかながら田んぼがあります。おいしいお米はできるが量は少ない。

設楽町の中心地が田口というまちです。ここに生活上必要なものはすべて揃っています。これほどアクセスの整った町はほとんどないのではないかとのことですが、過

疎化をとめることができない状態です。

設楽町のシンボルといえば、ブナの原生林があります。シャクナゲもあります。日本一のオシドリの飛来地でもあります。花祭は東栄町が有名ですが、設楽町にもあります。伝統芸能として田楽祭もあります。この二つは国の重要無形民俗文化財になっております。私たちの活動は設楽町に残されている自然を生かす、これを産業に結びつけるということで 130 ヘクタールのすごい原生林です。地元の小学校全員が取り組んで個人で所有してブナの森を作っております。この活動が 18 年続いています。3.5 町歩のブナの森ができています。楓から樹液を子供たちがとって飲んだりして体験をしています。樹液は国産メープルシロップになり設楽町の特産ということで 3 年前から販売しております。ラスクなどお菓子にも利用され、土産品として販売しています。

もう一つは近くにダムがあり、ダム湖の周囲が 15 キロメートルあります。湖畔を利用して大きな活動が芽生えてきたところです。民間でたてられたレストランで、赤字を補てんするためにほかのことをやっているのですが、連携という形をとり、5 年ほど前から観光バスがたくさんやってくるようになりました。山の中で何をやるかというと、シイタケ狩り、音楽会、探鳥会、縦笛演奏などで、名古屋の大学生が参加してくれています。今年からは、役場と連携をして原生林の横にビジターセンターをつかって、このセンターを利用してボランティア活動を会社組織にしていきたいと取り組んでいます。行政と民間で連携し産業で盛り上げようという活動をしています。

質疑応答要約

- ソーラーシェアリングは 3 年前農林水産省の補助金をもらい立ち上げた。研究段

階では6か所各50キロメートルで300キロワットを計画しており資金面で苦労した。今週くらいに資材が届き3月には設置をして4月から実際稼働するのは3か所で150キロワットである。

- 農業委員会の許可もいただきながら行っている。
- ビジターセンターは町営になる。ボランティア組織は、やがてそれを民間の会社として雇用を増やしていく。軽井沢方式を取り入れた。将来的には愛知県の軽井沢ということで軽井沢構想がはじまる。

「風土」分科会

天龍村柚餅子生産者組合 組合長

関 京子

この三遠南信の豊かな自然と文化、深い歴史にはそれぞれに恵まれている地域で胸を張って生きているところ。しかしながら、住んでいて大変なことは過疎で人がいなくなっていくことです。せっかく日本の原風景ともいわれる素晴らしい所なのに後継者不足や経済的な問題もこの山間地域の共通の悩みで高齢と共に農業もできなくなっています。問題解決には一体となりスクラムを組んで対応していく事だと思っています。

今、各地域に協力隊という若い人たちが来てくれています。若い人の力は大きいので元気が出ます。神子になってお祭りを支えてくれる人もいますが、3年でこの地に住める力をつけるのは大変です。なんとか生活していけるように育ててやらないと昔からの生きる知恵を伝え、体験を受け入れ、また若い人からも新しい目で見えるものを教えてもらい、一緒に地域のことを考えていけると良いかなと思います。天龍村には本当に良い娘や息子のような協力隊員が来



ています。

伊那谷ではあと10年足らずでリニアも通るようになり交流の窓口がぐーんと大きくなり、都会の人だけでなく外国人も受け入れるようになると思います。観光の面では、三遠南信の良さをしっかりと情報発信できるように、学習もして、語学も身につけ、外国語のパンフレットも制作するなど受け入れ態勢を整えることも必要かと思います。

三遠南信住民ネットワーク協議会の作った『三遠南信ここが楽しい事典』祭り、駅&城跡、道の駅&温泉、特産物、花街道をテキストに交流を深めることができました。この地域以外の方にもお求めいただき、御利用くださったとのお話もありました。

また、この地域の重要無形民俗文化財としてのお祭りは多くの皆様に知っていただく機会はありましたが、お祭りに関連する食文化は全然取り上げられてなかったのです。今私たちが伝えるべきだと思い、祭りと食文化を融合させたイベントを実施してきました。「新野の雪祭り」の実演・解説に「はつはる」御膳とか弁当として、「坂部の冬祭り」は「神楽舞」御膳とか弁当としてお上がりいただきてきました。浜松、豊橋、東京からも多くの方がお越しくださいました。

時季の物をいただくということは、神様だけではなく人間にも健康的であり、信仰にもつながり良いことで、東京の銀座NAGANOでも大変好評で、今多くの方が求めていることがアンケートからもわかりました。この三遠南信地域でも県境を越えて祭り街道御膳や弁当ができ、組織づくりができることを願っています。

合唱劇「カネト」をうたう合唱団

清水良文

合唱劇「カネト」をうたう合唱団は結成から17年になります。各地で公演を行ってきました。合唱劇の内容はJR飯田線の歴史です。今日も、新城から飯田線に乗って2時間半から3時間くらいかけて飯田へ来ました。飯田線の歴史はなかなか知られていません。昭和初期、三河川合から天竜峡間を川村カ子トさんが測量し、門島と天竜峡間の一部工事を行いました。カ子トさんはそのときに現場監督をやっていて、ともに働いていた作業員から埋められそうになってしまうという史実です。その現場となったトンネルも残っており、今日はそこを通ってきました。

この合唱劇「カネト」は、2000年に初演し、2007年に飯田文化会館、2008年にはカ子トさんのふるさとしてある旭川でも公演行いました。

2016年6月の水窪公演では、飯田カネト合唱団とともに水窪小学校と城西小学校の全児童との共演が実現し、水窪の山間に歌声がこだましました。初演から16年間カネトの合唱劇を通じていろいろな人たちと交流を行ってきています。ただ三遠南信の三大都市の浜松市市街地でやっていないのです。ぜひやりたいと思っていますので、御協力をお願いしたいと思います。

この合唱劇「カネト」は、飯田線の話だけでなく、アイヌ民族への差別と偏見に屈しない精神力をもって仕事を成し遂げたカ子トさんの生きざまを表現しています。私たちが次の世代に受け継いでいかななくてはならないテーマだと思っています。ローカルな飯田線のテーマだけではなくて交流を深めながら次の世代に受け継いでいくことが大事だと思っています、これが「交流人口



の拡大への取り組み」だと思っています。この飯田線の歴史を後世につないでいかななくてはならない。その手段として、この合唱劇「カネト」という舞台劇でつないでいきたいと思っています。

質疑応答要約

- JR 飯田線の車掌にカ子トは知っているかと聞いたら知らなかった。PRが必要だ。
- 祭りにきてくれるのはよいが、取り持ちが破産してしまう。これが現実であり、伝承文化を守るということは大変なことである。一方、盆踊りを太平洋戦争中もめげず続けてきた魂もある。
- まだ力があるうちに、多方面の力を借りて三遠南信がひとつになれるような組織づくりができればよいと思う。

「山・住」分科会

夢工房・左閑辺屋組合事務局長

平松雅隆

天龍村の最南端、愛知県と長野県の県境にある坂部からきました。9年前に廃校となった建物を地



域活性化施設として利用し、「夢工房・左閑辺屋」で活動をしています。私どもの坂部地域はお祭りが盛んなところですが、5度の祭りといって年間5回、だいたい2か月に1回くらいお祭りをしています。「坂部の冬祭り」は、「熊谷家伝記」によりますと、正長元年(1428年)に熊谷直吉が館を現在の地に移転した時に夢占いによって始めたと言われています。冬至の季節における生命復活の祈りであります。もともとは12月でしたが、現在は1月4日です。

このように人々は、お祭りを根っこの部分にしっかりとおいて暮らしてきました。私も学校を卒業して一度地域外で暮らし

した。その時も1月4日には必ず帰ってきました。1回だけ用事で出られなかった時がありますが、その年はなんとなくおかし。今も若い人たちは地域外で暮らしていますが必ず祭りには帰ってきます。この祭りが人々の心にしっかりと根づいています。

その流れの中で、「祭りと食」をテーマに南信州交流の輪で「祭り街道フェア」を行ってきました。平成26年11月に阿南町にある温泉「かじかの湯」で竹の器を使って料理を80名分作りました。竹の器を作るのに、竹を山から切り出すのが非常に大変な作業です。切り出した竹を寸法通りにカットし、煮沸し、磨いて天日で3日か4日くらい干します。銀座NAGANOでのイベントでは、竹の徳利を作りました。この徳利の色はきれいな緑色で、冷凍庫に入れて保存すると1、2年はこの色が保てます。

夢工房では地域おこし協力隊の皆さんと一緒にいろいろなイベントをやってきました。ほくほく芋煮会、坂部の特産やつがしらを掘って芋煮会をしました。この時は浜松から若い人たちが30、40人来てくれました。お祭りとか自然とかに興味をもってくれる若者が最近増えたなあと感じます。今後、自然の恵みをいただき、地域内で現金収入を得たいと考えています。

愛知大学総合郷土研究所 平川雄一

東三河交流ねっとという組織があります。三遠南信住民ネットワーク協議会の地域連携組織の東三河支部です。この交流ねっとで企画を運営している事業として「三遠南信研修交流会事業」というのがあります。2015年度からはこの事業を本協議会の事業に盛り込んで実施するようになりました。

事業内容や目的は、中山間地域を中心に



東三河、遠州、南信州の活動団体を訪問し、そこで活動されている方の活動内容やその地域の地域資源などをみんなで再発見し、再評価するために訪問団体の活動を一緒に体験します。そして意見交換して、お互いの今後の活動に活かすことをねらったものです。

この事業を2013年度に始めてから4年目になります。年間におおむね東三河、遠州、南信州の3地区1団体ずつその地域内へも訪問しています。今までに南信州では遠山郷、阿南町和合、天龍村坂部、遠州では浜松市浜北区、天竜区水窪、東三河は豊橋市や新城市を活動拠点とする会員らを訪ね、研修と交流事業を実施しました。

研修中の意見交換では、地域資源の新たな発見だけではなく既存の地域資源をどうやって活かしていけばよいかという意見が出ました。すぐに答えが出ることはありませんが、今までとは違っていたり、気が付かなかった見方や考え方も示しながら、地域資源の掘り起しや再評価につなげていくことを双方が実感してもらえるような取り組みになっていますので、大変意義のある活動を進めていると考えています。

中山間地域では、人口減少と高齢化が進んでいます。我々三遠南信で活動する住民団体同士がきちんとこれらの問題や課題を認識し、これからもこの活動を続けていかななくてはならないと思います。

質疑応答要約

- 竹の器の注文は10セットか15セットが限度で制作期間は2週間程度かかる。竹は虫がつくので、11月以降に切って冷蔵庫にて保管している。

3. まとめ

南信州交流の輪 福沢千恵子

「道」分科会

- ・歴史資産や豊かな自然を地域住民が認識する中で行政と連携することの必要性
- ・水上の道をいかしたまちづくりのなかで「浜名湖ロマン」構想の実現化



「技」分科会

- ・中山間地域の生業や生活に根差した伝統文化の継承と生きた技の発信
- ・中山間地域と都会との交流を生かした行政との連携組織の構築

「風土」分科会

- ・歴史・文化・暮らしを守る三圏域の統一目標の提案
- ・人々の思いを若い人へ伝承する交流や人材育成の必要性

「山住」合同分科会

- ・自然素材を活用しての収入源の可能性
- ・協働による地域資源の掘り起こしや活用方法の実践づくりの体制づくり

4. 前回住民セッション後の経過報告と

会員からの報告

NPO 法人地域づくりサポートネット

山内秀彦

平成 27 年度に祭り街道の基礎調査ということで、遠州地域の中部地方整備局浜松河川国道事務所の委託事業として NPO 法人三遠南信アミを中心に取り組んでいただきました。平成 28 年 7 月、東京における三遠南信道路建設促進期成同



盟会総会の折、道の駅において祭り街道の情報を発信したいということと、高速道路・自動車道の整備効果促進をシーニックバイウェイの活用という形で、三遠南信地域の祭り・自然・文化などを紹介し地域をめぐってもらうことをやっていきたいと。28 年度は遠州をモデル地域にして目に見える形のものにするということで「祭り街道マップ」を現在制作中です。三遠南信アミの水島さん、東三河地域の平川さんに企画編集をお手伝いしてもらいながら進めてきました。遠州と奥三河の一部が浜松河川国道事務所の管内ということです。これを三遠南信全域にひろめてほしいと、各地域の国土交通省の関連部署にお願いしました。今後、各地域の方々がそれぞれの部署に要望していただき、祭り街道弁当もこういったところに紹介していくとか住民ネットワークの取り組みも紹介し、道の駅でも発信していきたいと考えています。現在はそのモデルを作って広めていくということです。平成 29 年 3 月に終了しますので次なる展開を仕掛けていかななくてはならないので、よろしく願いいたします。

NPO 法人三遠南信アミ 水島加寿代

上記に関する補足ですが、「祭り街道マップ」は予算の都合で遠州エリアが中心になっていますが、祭り街道をもっと三遠南信地域外から来る人に伝えたいというのが取り組みの狙いです。今後は、さらに国土交通省に働きかけて三遠南信全体の取り組みになっていくと思いますので、アイデアを寄せていただきたいと思います。

直虎は引佐を中心にしたドラマで、今年で終わりますが、連携した取り組みは、今年で終わらせず、高森の松源寺、三河の鳳来寺、御前崎方面まで、まさに三遠南信地域の文化が直虎につながっています。これをきっかけにあらためてこの地域の魅力を

発信し、三遠南信地域が「心をひとつ」に取り組んでいけば地域の魅力をより一層発信できると思います。

愛知大学総合郷土研究所 平川雄一

JR 飯田線を積極的に PR していこうと飯田線をテーマにした「飯田線マップ手ぬぐい」が販売されます。駒ヶ根や飯田の方が中心になって考案されました。現在、販売に向けて準備・制作中で、2017年4月中旬の発売予定です。現在特別価格にて予約受付中 (<https://iidasen.jimdo.com/>) です。みなさん、ぜひ予約をお願いします。この取り組みについては、「三遠南信住民ネットワーク協議会」も協力団体として団体名を予約チラシに掲載してもらいました。JR 飯田線と「飯田線マップ手ぬぐい」の PR に協力しながら、三遠南信住民ネットワーク協議会の団体名も覚えてもらおうという狙いもありますので、みなさんの協力もお願いいたします。

天龍村柚餅子生産組合 関 京子

先ほど大島さんのお話の藤布とか葛布は、昔神様に出るときに着る上着にしたものです。今でも残っている所もあると思います。そして、祭り街道が豊橋から飯田まで国道151号とともにつながるようにぜひ御協力をお願いいたします。

奥三河自然と歴史にふれあう会

加藤博俊

後継者は、活動を続けていけば自然とできてきます。設楽町では多くの後継者が育っています。若い人たちは連携していろんな活動をしています。都会からきたときにゆっくりしたい、休みたい、泊りたい、その場がない、近くの空き家を開放してもらい自由に泊れるようにしたい。そのように自炊をして泊っていく施設ができつつあり

ます。後継者不足は困ることばかりではなく、こういう形で若い人たちがすごく頑張っています。

NPO 法人三遠南信アミ 中野 眞

いろんな地域の宝物を多くの方に巡っていただきたいと思います。私の自宅がある磐田市から飯田まで来るのに車で新東名高速道路から三遠南信自動車道を利用し、東栄駅に車をおいて JR 飯田線で来ました。三遠南信道路ができて浜松をはじめ遠州地域と奥三河、南信州が近くなっていることを実感しました。三遠南信地域をめぐる一つの方法かなと思います。

■閉会挨拶

NPO 法人地域づくりサポートネット

山内秀彦

南信州の皆さん、
本日は準備等いろいろありがとうございました。いろんな地域で活動している話



をこのあとのサミットの分科会でもしっかり伝えていただきたいと思います。次回のサミットが遠州ということで、そろそろ5巡目に入ります。だんだん形にしていく時期に入っているかなと思います。次のサミットに向けて交流や情報公開をしていきたいと思います。今日は朝から住民セッションへの御参加、御苦労様でした。